様式Ｖ-5

活用効果評価結果

公開版

平成29年度

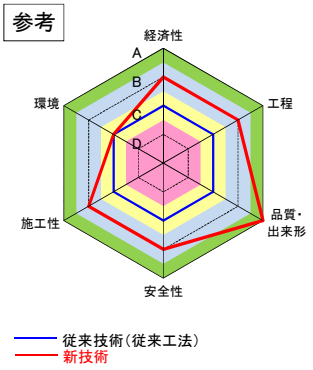
中部地方整備局 ／ 新技術活用評価会議

NETIS情報	開発目標	省力化、経済性の向上、品質の向上				
	新技術登録番号	TH-120031-A	区分	工法	有用な技術の位置づけ	活用促進技術
	分類	コンクリート工 － コンクリート工 － コンクリート打設				
	新技術名	温度ひび割れ抑制技術「NDリターダー工法」				
	比較する従来技術（従来工法）	ひび割れ誘発目地の設置				
	新技術の概要及び特徴	本工法は、壁状コンクリート構造物の構築において、水和熱抑制型超遅延剤「NDリターダー」を添加したコンクリートを壁体下部に打ち込むことにより、外部拘束を低減して温度ひび割れの発生を抑制するとともに誘発目地の設置を不要とするものである。				

活用効果評価	所見	【優れていた所】 ・貫通ひび割れの発生が抑制されることにより、品質が向上するとともに、手間のかかる誘発目地設置作業がなくなることで、施工性の向上も図られている。
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用調査及び活用効果評価を継続する技術としての選定要件にあてはまらないため継続調査は実施しない。 よって、情報種別記号「－VE」とする。
	留意事項	・該当なし
	活用効果調査表における改良点及び要望	・該当なし

項目の平均（点）と従来技術（従来工法）（点）の比較

参考



活用効果調査結果

参考

対象工事

1	橋梁下部工事	（従来技術	ひび割れ誘発目地の設置 ）	施工者希望型(契約後提案)
2	高架橋下部工事	（従来技術	ひび割れ誘発目地の設置 ）	施工者希望型(契約後提案)
3	道路建設工事	（従来技術	ひび割れ誘発目地の設置 ）	施工者希望型(契約後提案)
4	樋管改築工事	（従来技術	ひび割れ誘発目地の設置 ）	施工者希望型(契約前提案)
5	道路改良工事	（従来技術	ひび割れ誘発目地の設置 ）	施工者希望型(契約後提案)

項目 ＼ ケース番号および年度		1	2	3	4	5	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)
		H28	H28	H27	H27	H27		
施工時評価	経済性	B	D	A	B	C	B	C
	工程	B	B	B	C	C	B	C
	品質・出来形	B	A	A	B	A	A	C
	安全性	A	B	B	A	A	B	C
	施工性	B	D	A	A	A	B	C
	環境	C	C	B	C	C	C	C
	その他							
総合評価点		B	C	B	B	B	B	

今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も是非活用したい	活用を検討したい	場合によっては活用することもある	技術の改良を強く望む
	60%	20%	20%	0%

各項目における判定	
A	従来技術より極めて優れる
B	従来技術より優れる
C	従来技術と同等
D	従来技術より劣る

追跡調査の必要性	不要
追跡調査	―